

2012年4月10日

第2回 野洲市新病院整備可能性検討委員会

野洲市政策調整部
企画調整課地域戦略室
(587-6141)

前回委員会のまとめ

○病院の必要性の再確認

- ・ 大学病院などの大きな病院と自宅療養の間をつなぐ役割
- ・ 中軽度の症状で入院が必要な市内患者への対応
- ・ 在宅医療を推進する上で診療所等の後方支援の役割

○病院像を具体化する上で・・・

① 医療サービス維持の観点

野洲病院が担っている医療サービスの見極め

② 将来の想定と現在の充実の観点

医療サービスの充実が期待されている分野への取り組み

③ 病院の健全経営の観点 <持続可能性>

病院として積極的に取り組むべき分野(魅力ある病院)

『診療所等や野洲病院が持っている医療資源の分析』

※ 市民が積極的に利用しようとする病院づくり

※ 女性スタッフをうまく活用できる仕組みづくり

検討スケジュール

○第1回（2/17）

* 実施済

○第2回（4/10）

① 病院像の具体化

＜病院機能、診療科、病床規模等＞

② 病院立地場所の課題整理＜野洲駅周辺・郊外＞

○第3回（5/15）

③ 病院の整備費用の検証

④ 病院の運営形態と運営した場合の事業収支の検証

○第4回（6月中旬）

⑤ 検討のまとめ

○第5回（7月）

* 必要に応じ開催

	4月	5月	6月	7月
新病院整備可能性検討	●4/10	●5/15	●上旬 ●中旬	●未定
①機能・診療科の検討	→ 機能・診療科提案			
①規模の検討	→ 病規模提案			
③整備費用の検討	→ シミュレーション作成 → 整備費用提案			
④運営形態と事業収支の検討		→ 運営・事業の検討 →	検証結果・提案	
②設置場所の検討	→ 郊外・駅周辺 →		候補地絞り込み提案	
新病院整備可能性検討のまとめ				

病院像の具体化

○病院の機能及び診療科 <第1回検討委員会資料抜粋>

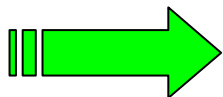
◎病院の役割・機能

回復期医療と在宅医療の後方支援機能を重視した一般急性期病院を目指し、特定の診療科について先駆的で魅力ある医療を実現

◎診療科

- | | | | |
|-------|-------|-------------|-------|
| ①内科 | ②小児科 | ③外科 | ④整形外科 |
| ⑤産婦人科 | ⑥眼科 | ⑦リハビリテーション科 | |
| ⑧泌尿器科 | ⑨人工透析 | | |

* 現在の野洲病院と比較すると、耳鼻咽喉科・皮膚科・脳神経外科を周辺医療機関で代替。

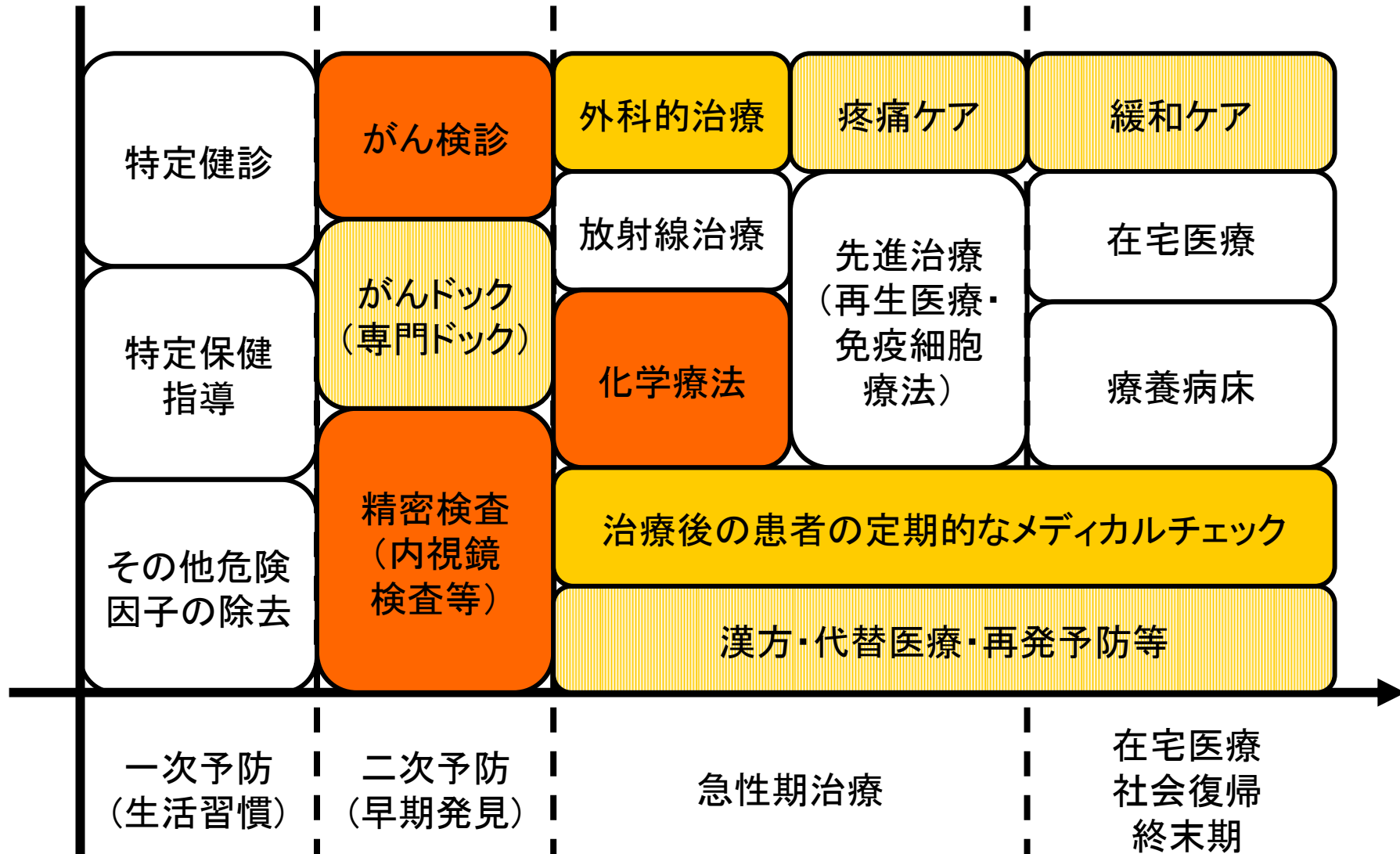


実際にどの程度の診療機能を備えるか・・・
<5疾病4事業への対応>

5疾病

①悪性新生物

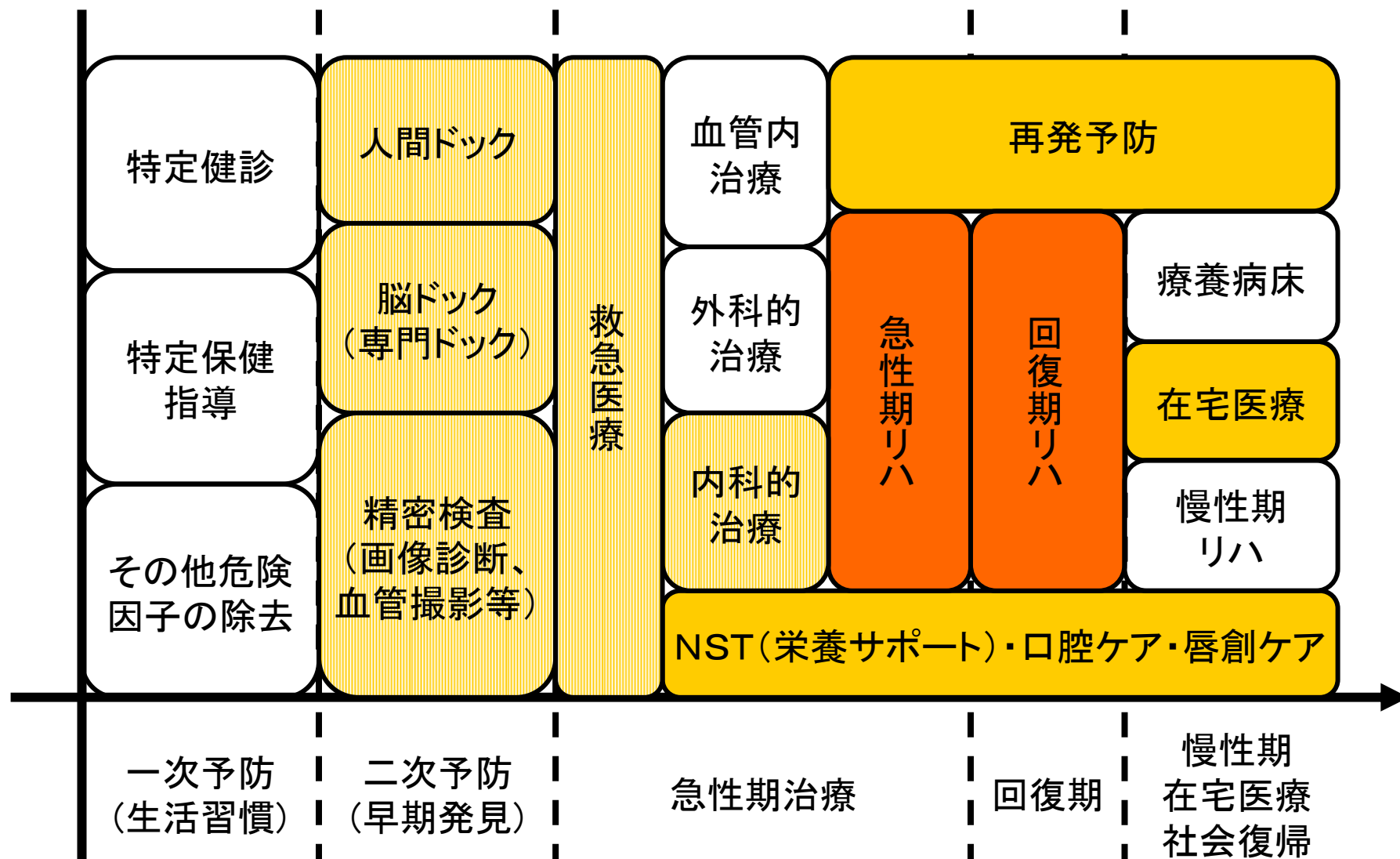
1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



5疾病

②脳卒中

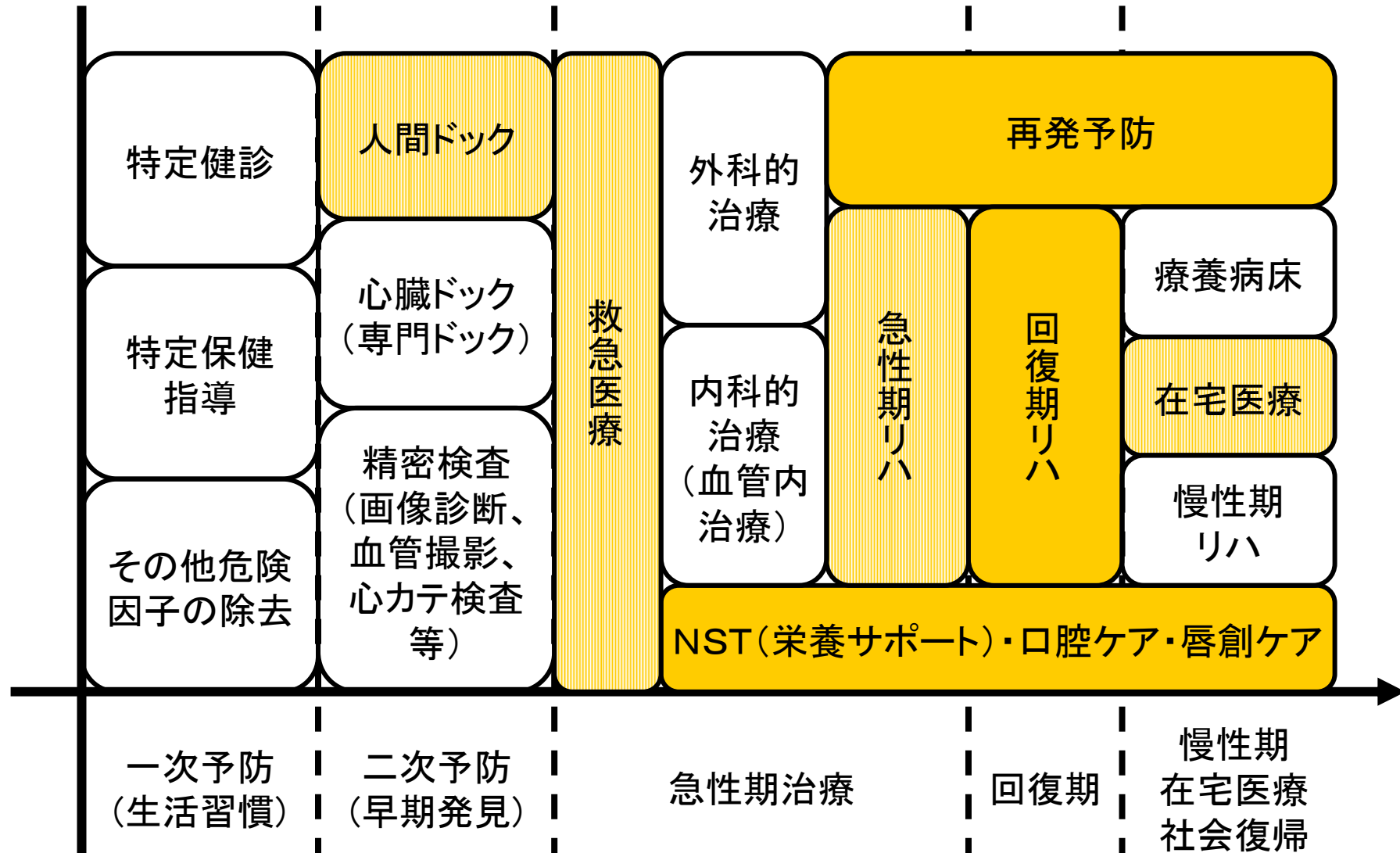
1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



5 疾病

③心筋梗塞

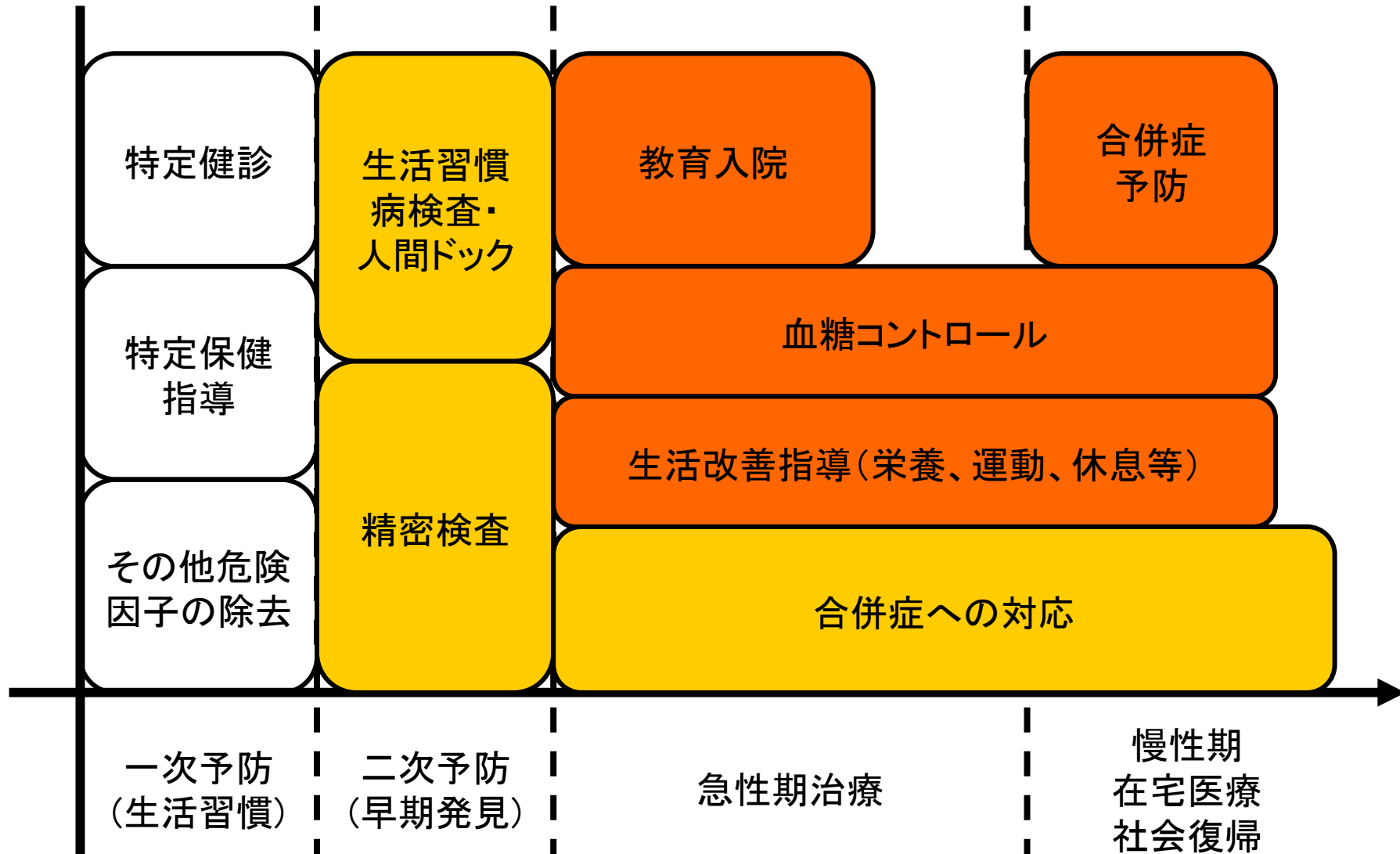
1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



5 疾病

④ 糖尿病

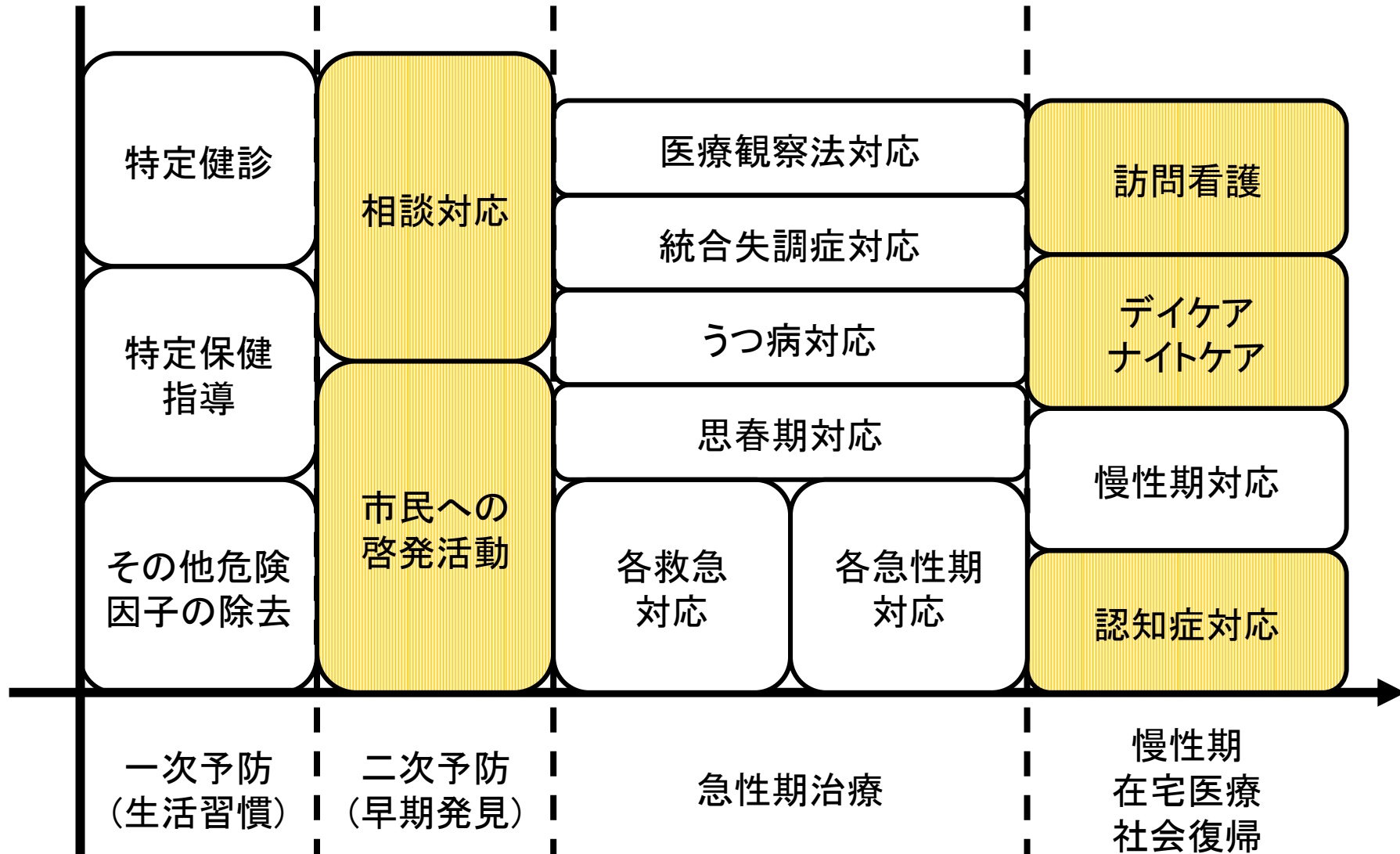
1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



5 疾病

⑤ 精神疾患

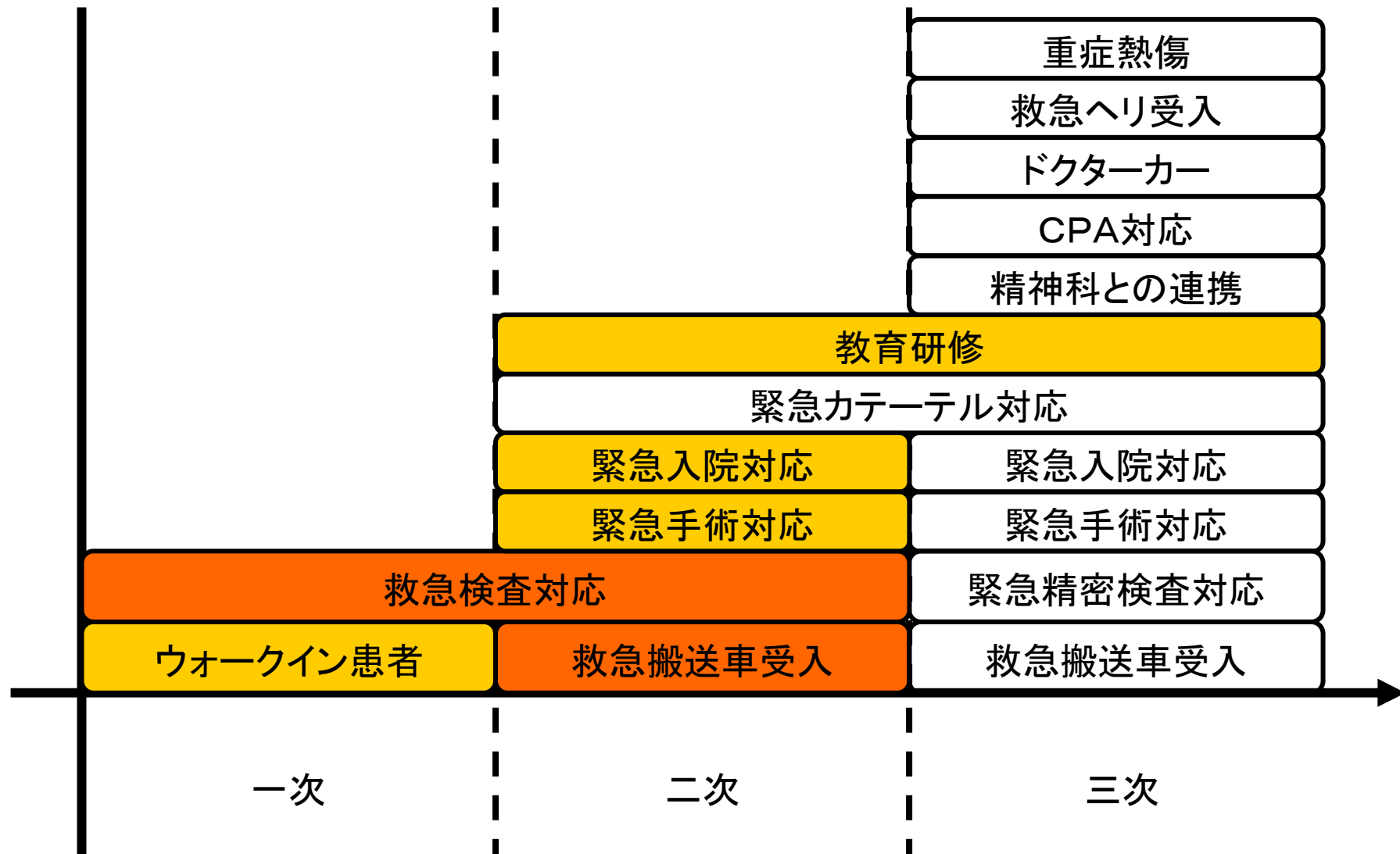
1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



4事業

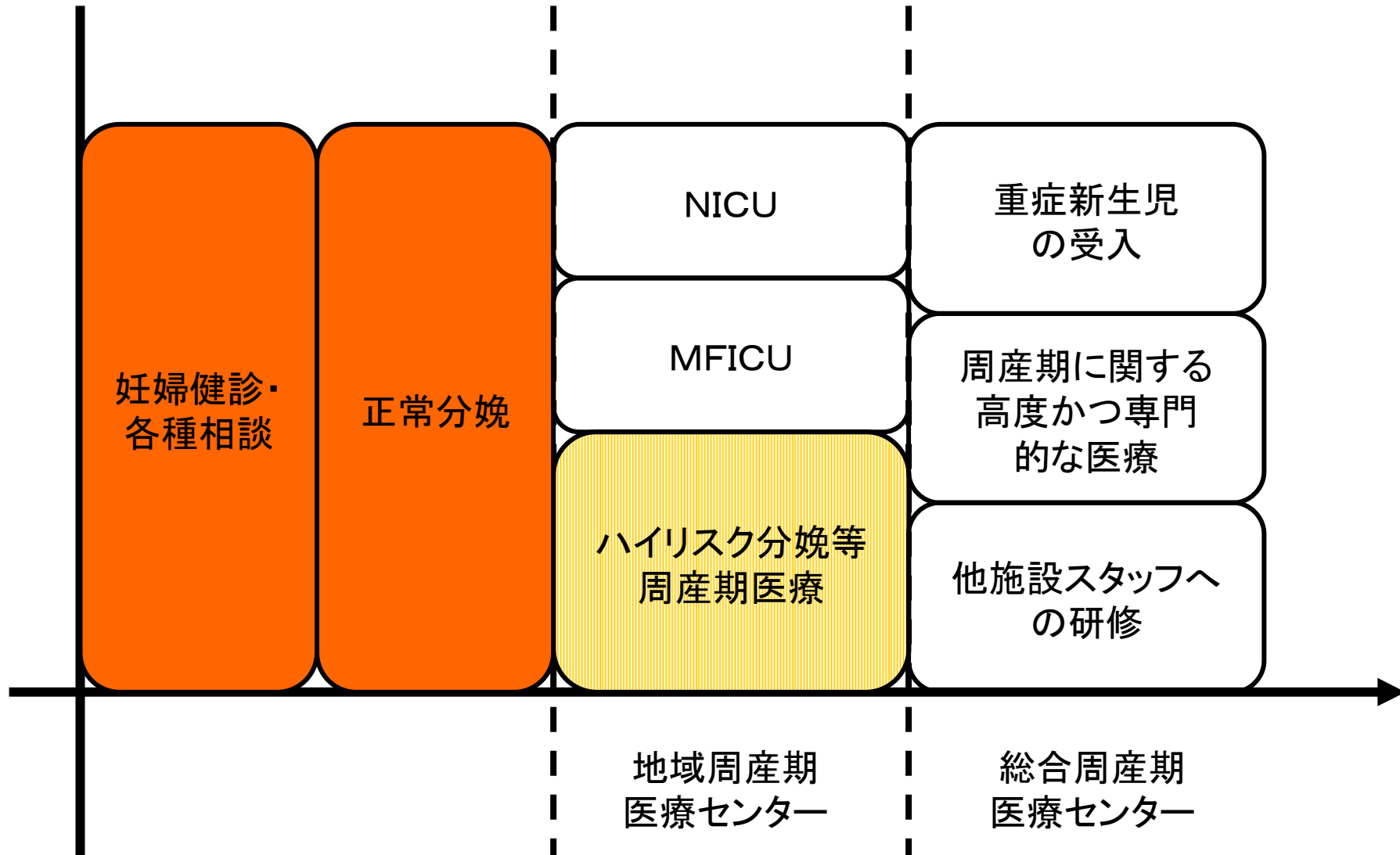
⑥救急医療

1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



⑦周産期医療

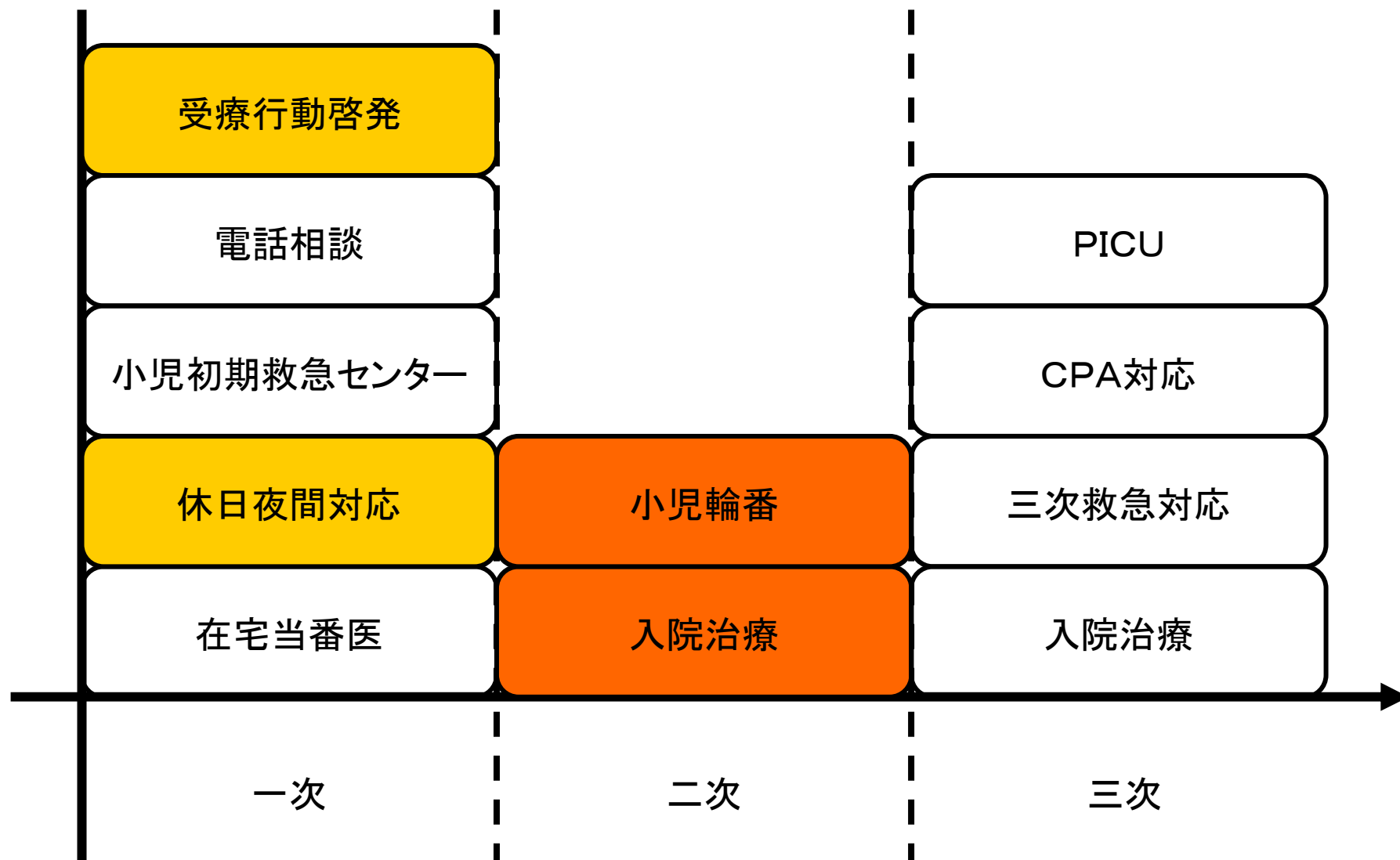
1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



4事業

⑧小児医療・救急

1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。



4事業

⑨災害医療

1	特に重点的な機能として位置づけ。
2	中心的な機能として位置づけ。
3	実施するが、中心的機能としては位置づけない。
4	他の医療機関で代替。

災害発生時の
患者受入

医療資機材
・医薬品・
食材の備蓄

災害・救急医療
の教育・啓発
／医療スタッフ
の派遣等

○医療サービスの充実が期待されている分野

- ・在宅医療を推進するための診療所の後方支援
- ・病児、病後児保育への対応

○病院として積極的に取り組むべき分野 など

＊市民や医療スタッフに魅力のある病院づくり

▲資料(P.14～17)

- ・ 5 疾病 4 事業以外に、二次保健医療圏内で比較的不足していると見られる「尿路性器系の疾患」や「整形外科領域」の診療強化を目指していく。
- ・ 多くの市民が利用しやすく、医療スタッフの確保に有利とされている駅周辺に病院整備を行う。【後述】
- ・ 育児世代スタッフ等の有効活用につながる勤務体系の工夫（ワークシェアリングなど）や、市民ニーズが高い病児、病後児保育への対応を行う。
- ・ 市民に親しまれる病院としていくため、運営をサポートする市民ボランティアの導入や医師会との連携を推進する。

○病床数について

199床の維持 <現在の野洲病院の病床数>

理論上必要な病床の見込み... 約260床

▲資料(P.18～20)

《 $158.7\text{床} \div (100\% - 32\%) \div 90\%$ 》

※ただし、湖南保健医療圏における基準病床数と現在の野洲病院に許可されている病床数を考慮することが必要。

※経営の効率性を考慮した評価が別途必要。

○病床数算出の考え方

野洲市在住の将来患者数見込みを算出 158.7床

野洲市以外から受診される患者数を設定 約32.0%

＊平成22年度野洲病院利用実績で想定

病床利用率の設定 90.0%

＊平成21年度地方公営企業年鑑における黒字病院のうち、100床以上200床未満の一般病床の病床利用率は74.7%であったが、設備投資に伴う借入返済等を考慮し、病床数算出時点では90.0%として設定。

検討課題

▲資料(A3)

① 5疾病4事業への対応について

⇒ 重点的な機能や中心的な機能に問題はないか

② 診療科について

⇒ 内科や小児科など、9診療科で問題はないか

③ 病床数について

⇒ 機能や診療科を考慮した上で199床として問題はないか

④ 医療サービスの充実が期待されている分野について

⇒ 次の2分野でよいか

- ・在宅医療を推進するための診療所の後方支援
- ・病児、病後児保育への対応

⑤ 病院として積極的に取り組むべき分野について

⇒ 市民や医療スタッフに魅力のある病院となっているか

⇒ 実現が困難な内容となっていないか

参考データ

○市内の医療資源の分析

◎市内診療所

▲資料(P.21)

調査対象：33診療所 回答協力：30診療所

① 標榜診療科（守山野洲医師会HPより）

内科、消化器科、呼吸器科、循環器科、腎臓科、神経科、透析科、外科、整形外科、産科、婦人科、小児科、肛門科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、アレルギー科、リウマチ科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

② 今回の調査により回答があった診療科（①を除く）

糖尿病・代謝・内分泌科、血液・免疫科、老年科、心臓・血管科、心療科、乳腺科、泌尿器科、その他（内シャントP T A、手術）

◎野洲病院

▲資料(P.22～24)

① 標榜診療科

② 入院外来患者数、在院日数、病床稼働率

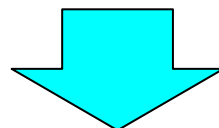
③ 診療単価 差額ベッド料金収入

○市民の受療動向

国民健康保険及び後期高齢者レセプトデータで分析

・平成23年5月診療分データを採用

▲資料(P.14～17)



《全体》

野洲市民による**野洲病院の入院利用は約24%**、外来利用は約10%。外来患者は主に市内診療所を利用(約60%)

《個別》

内分泌系の治療に関する野洲病院の入院利用は約62%と比較的高い。しかし、新生物治療による入院利用は約6%と低く、近隣の成人病センターが利用されている。

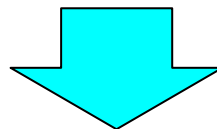
また、心疾患及び脳血管疾患については、約15%～20%の入院利用があるが、急性期の患者は救急搬送されることが多いため、周辺病院で対応されていると考えられる。

○その他(周辺病院への影響)

救急搬送データで分析

▲資料(P.25)

- ・平成23年搬送人員別医療機関(東消防署分)を採用



《全体》

東消防署管内における救急搬送患者数	<u>1989人</u>
-------------------	--------------

うち野洲病院への搬送患者数	<u>442人</u>
---------------	-------------

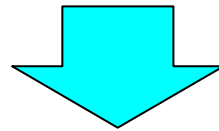
済生会滋賀県病院、野洲病院、県立成人病センターの3病院で、東消防署から救急搬送された患者の約80%を受け入れている。医療圏外への救急搬送は総数の約7%であり、概ね医療圏内で完結している。

なお、**野洲病院**は済生会滋賀県病院の次に受け入れ件数が多く**総数の約20%**を受け入れている。

病院の立地場所

市が病院を整備する目的とその可能性を考慮し、以下の観点で「野洲駅周辺」と「郊外」とした場合の利点と課題を整理。

- ◎市民の安心 ⇒ 利用しやすさ（アクセス面）
- ◎持続可能な病院運営 ⇒ 病院の健全経営



○課題整理の結果

郊外に立地した場合、野洲駅周辺と比較すると地価は安いですが、造成工事や周辺道路の整備など、新たなインフラ整備費用も必要である。また、自家用車での通院が基本となるため、**全ての周辺病院と競合**することになり、**病院経営の苦戦が予想**される。今後、**公共交通機関に頼らざるを得ない患者やその家族が増加**することを考慮すると、既存の公共交通機関が利用でき、**多くの市民が利用しやすい野洲駅周辺への立地**が望ましい。

○野洲駅周辺とした場合

【利用しやすさ】

- ・野洲駅周辺に市役所やショッピング機能などが集積していることや、駅前市有地には市民活動拠点施設の整備計画があり、便利さとともにまちのにぎわいが期待できる。
- ・**既存の公共交通機関を利用できる**ことで、多くの市民が比較的便利に利用できる。
- ・駐車場用地が不十分となる可能性や**時間帯により交通渋滞が心配**される。

【病院の健全経営】

- ・医療機能によっては、J R利用の患者が見込める。
- ・**医療スタッフの確保に有利**である。
- ・地価(130,000円/㎡；駅前)が高い。ただし、既存の公共交通機関を利用することで追加的な費用は要さない。

○郊外とした場合（例；辻町地先＜福祉保健センター周辺＞）

【利用しやすさ】

- ・ 周辺に消防署や福祉保健センターが立地し連携がとりやすい。また、新駅構想があるエリアで、将来新しい市街地が形成できる可能性がある。
- ・ **駐車場が比較的確保しやすく、交通渋滞の心配が少ない。**
- ・ 地域によってアクセスが不便な市民が出てくる。また、J R 利用患者も不便である。

【病院の健全経営】

- ・ 地価（18,000円/m²；辻町）が安く広大な土地を確保しやすい。
- ・ しかし、造成工事や周辺道路整備など、新たなインフラ整備費用が生じる。また、アクセスが不便な地域のための公共交通整備費用が生じる可能性もある。
- ・ 自家用車での通院が基本となれば、**全ての周辺病院と競合**することになり**病院経営の苦戦が予想**される。

※ 郊外のその他の地域についても、上記と課題が共通しており、個別の検証は実施しない。

[illegible]

近江八幡市立総合医療センター

2.5km

新病院整備候補地

県立成人病センター

野洲病院

守山市立病院

濟生會滋賀県病院

野洲駅周辺で病院整備の可能性がある場所

駅から病院までの距離を500m程度とした場合

